
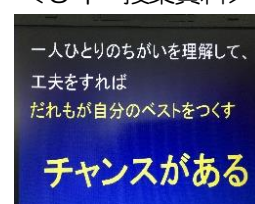
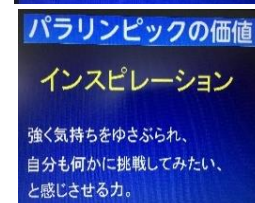






令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 運動・遊び大好き！オリパラ教育推進事業推進校 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【防府市立玉祖小学校】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③・Ⅳ・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	第4・5・6学年 児童 （4年：39名 5年：54名 6年：51名）
3 展開の形式	○学校における活動 ・教科名（総合的な学習の時間・特別活動（学活））
4 目標 （ねらい）	・パラスポーツを含めた運動体験を通じて、スポーツへの関心を高めるとともに、選手一人ひとりが、個々の思いや自身の特性に応じながら豊かなスポーツライフを送っていることを知る。 ・パラリンピックについての学習を通じて、多様な人々が共に生きる社会の実現に向けた共感や思いやりについて考える。
5 取組内容	<p>・事前学習・・・「I'm possible」を活用した授業実践 <4年・6年>「パラリンピアンを応援しよう」（パラリンピックスポーツ） <5年> 「パラリンピックについて知ろう」（パラリンピックの価値） 事前学習として、「I'm POSSIBLE」を活用した授業実践を4年生以上の学級で行い、パラリンピックに関する理解を深める学習の場を設定した。学習内容は、当該教材に収録されている3つのテーマ（「パラリンピックの価値」（障害理解）、「パラリンピックスポーツ」（選手のキャッチコピーづくり）、「東京2020スペシャル」（クイズづくり））から各学年の実態に合わせて領域を選択して実践を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <p style="text-align: center;"><6年 授業資料></p>  </div> <div style="width: 35%;"> <p style="text-align: center;"><5年 授業資料></p>    </div> </div> <p>・運動体験教室 <4年>「ボッチャ」講師：山口県レクリエーション協会 <5年>「バドミントン」講師：ACT 西京 <6年>「車いすバドミントン」講師：スマイルクラブ 大浜 真 選手</p>

	<p>運動体験学習として、4年「ボッチャ」、5年「バドミントン」、6年「車いすバドミントン」を実施した。各学年とも運動体験終了後には、来校した団体や講師に対して自身の学びをふり返ったお礼の手紙等を書いた。事前学習や運動体験と並行して、図書室にオリパラに関する特設コーナーを設置し、全校児童が手軽に書籍を手にすることができるようにした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><4年 ボッチャ></p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p><6年 車いすバドミントン></p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p><5年 バドミントン></p>  </div> </div>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習・・・「I'm possible」を活用した授業実践 6年生では、映像資料と合わせて「パラリンピック」という言葉の意味や、競技数、歴史的な背景等の学習を導入で行い、パラアスリートへの関心が高まっていた。4・5年共に国語科や社会科の学習でのキャッチコピーを作る経験を活かし、タチアナ選手の努力や考えを表すキャッチコピーを作ることができた。また、5年生では「パラリンピックの価値」についての学習をし、障害がある方に対してどこか悲観的な印象をもっていた児童も、パラリンピアンが競技に取り組む姿勢を学ぶことで、「自分も何かにチャレンジしたい。」とインスピレーションを受けていた。 ・運動体験学習 4年生のボッチャ体験では、ほとんどの児童が未体験の競技に全員で取り組むことを通してボッチャがもつゲーム性の楽しさや、戦略を考える楽しさに気付くことができていた。5・6年生のバドミントン（車いすバドミントン）体験では、講師である選手が自由自在にシャトルを打ち返す圧巻のプレーを見て、「自分もやってみたい」という思いを強くもつことができた。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践では、「I'm POSSIBLE」の収録テーマに基づき、教員が学年の実態にあったオリジナルの教材を作成し指導を行ったことで学習への理解もより深まっていた。 ・スムーズな運営に基づく児童の運動時間の確保等、体験活動が充実したものになるように計画、連携を行った。
<p>8 主な課題等</p>	<p>選手のプレーを間近で見るとは児童にとって新たな発見を与え、心を動かすものであった。プレーを見て、「自分もできるかも！やってみたい！」という初発の思いを大切にするためにも、運動体験活動の時間を確保することが大切である。校内担当者と外部組織と連携を密にし、用具の準備や進行等、対応できる限りで円滑な運営ができるよう校内で共通理解を図りたい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>プロの選手や、その競技に長けた人物のプレーを実際に見るという活動が、児童の活動意欲や感動を生むものだと考える。体育的活動に関わらず、様々な教科において有識者やプロ等のゲストティーチャーを活用する指導につなげていきたい。</p>

